

# グローバル探究ライフ

コンフォートゾーンから飛び出すことで、学校生活ではできない出会いや体験ができるのが留学。  
その経験者たちに、リアルな留学ライフと気持ちの変化について語ってもらうシリーズです！

## 先輩の助言で面接に合格！ 留学で進路が固まった

File No.17

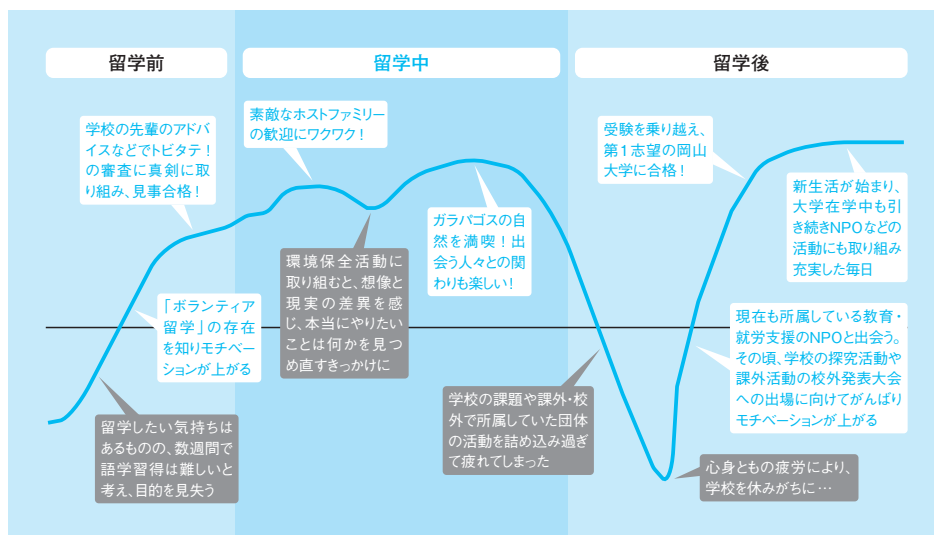


中山璃乃さん (19歳)  
水都国際高校 (大阪・府立) 卒業

幼少期から漠然と留学に興味をもち、高校の課外活動で人権啓発活動をしていたこともあり、トビタテ！で海外ボランティアとしてガラバゴス諸島へ留学。発展途上国の教育支援に関心が高まり、岡山大学のグローバル・ディスカバリー・プログラムに進学し勉強中！

海外ボランティア派遣団体の説明会でトビタテ！の存在を知り応募しました。学校の課外活動の先輩にトビタテ！生がいらしたので、アドバイスをお願いしたのです。面接の雰囲気やプレゼンの資料作り、発表方法などの助言を頂けて、審査まで入念な準備ができて見事合格！ 留学後は、私が後輩にアドバイスする側を務めました。

環境保全に漠然とした興味はあったものの、留学でガラバゴスに行つて実際に体験してみるとほとんどが肉体的労働。それも大事ですが、海外ボランティアが来たときだけの一時的な解決にしかないのではと疑問をもったのです。持続的な解決には現地の教育支援が必要と考えるようになり、帰国後は国際開発学を英語で学べる岡山大学のグローバル・ディスカバリー・プログラムを目指し、進学することができました。将来は途上国の人たちが自立して教育を改善できるようにシステム作りに関わりたいと考えています。



### DATA

【留学した年齢】

17歳

【留学した国】

ガラバゴス諸島 (エクアドル共和国)

【留学期間】

高校2年の7月から3週間

【留学内容】

環境保全活動とチャイルドケア活動のボランティア留学

【留学しようとおもったキッカケ】

語学以外を学ぶために、海外ボランティアの留学ができる「トビタテ！留学JAPAN 日本代表プログラム」に応募。

\*「トビタテ！留学JAPAN 日本代表プログラム」(以下、文中では「トビタテ！」)とは文部科学省が官民協働で留学促進を展開するキャンペーンによる留学支援制度。



ガラバゴス滞在中で最も美味しかったホストマザーのご飯。ピーナツソースがかかったお肉で日本にはない味。



みんなで作ったおにぎりを食べてくれているホストファミリーの人々。



環境保全活動としてガラバゴスゾウガメの保護施設へ。道中、餌となる草を刈って行く。ほかにも原生林で木を切るなど、環境保全活動＝肉体的労働に疑問を感じ始めました。



トビタテ！のアンバサダー活動として、欧米からの留学仲間と一緒に日本食を作りました。



教育支援活動では小学校で日本文化を教えました。漢字で名前を書いてあげると喜ばれた(笑)



エル・ファンコ湖の景色が美しいサンクリストバル島